

しまなみ農業だより

レモンに甚大な被害をもたらす チャノホコリダニ



盛夏のころレモン果実が肥大してくると、時折写真1のように果梗部に白くハチマキのようになっている果実が見え、あれよあれよという間に

にその付近一帯の果実が白くなってしまうことがありますが。



チャノホコリダニという微細な害虫による食害痕なのですが、肉眼ではほとんど見ることのできない害虫だけに厄介です。

形態と生態

成虫は淡黄色でメスがやや大きくとされていますが、それでも体長0.25mmほどの非常に小さなダニで、高温多湿を好み、25～30℃の場合

卵から成虫までの発育期間が5～7日と短く、短期間で爆発的に増えるため、気付いたときには手遅れになる場合が多いのが難点です。

レモン果実上での発生消長

冬季は下草や芽、樹皮の隙間等で越冬するといわれ、開花後落弁する頃果実に移動してきます。非常に小さい虫ですが良く歩き、移動速度が速いのがサビダニと異なります。口吻は更に小さいです。柔らかな組織のごく表面しか吸汁できないでしょう。果実の初期肥大期は、均一に大きくなるのではなく、果梗部で次々と新しい組織が形成され、古い組織は果頂部のほうへ押し出されていきますが、ホコリダニは果径で2～3cm位のサイズのときに、分化して間もない果梗部周辺で盛んに吸汁しているようです。そのサイズを過ぎると表面が硬くなってしまふのか、果実が膨らんでガク片と果実表面との隙間がふさがって吸汁出来なくなってしまうのか、あるいは果実表面が暑くなりすぎてしまふのか、ダニの姿は見えなくなってしまう。白い吸汁痕が見えてから防除しても間に合わない、といわれるのはこのためで、

果梗部周辺に白いリングが見え始めた頃にはほとんどダニが見られませんか。

ホコリダニによる吸汁痕は白く同心円状で、正常部位との境界が明瞭であることがアザミウマによる食害痕と区別されるところです。

しかしアザミウマ類とは防除薬剤が異なるため、正確な判別にはルーペを用いて虫を確認することが必要です。また、ホコリダニの吸汁痕はよく擦ると剥げるため、白化した表皮をきれいに剥いでから出荷する方があるそうですが、これは絶対にやめてください。果実表面を保護しているワックス層などが剥がれてしまい、後々腐敗の原因となってしまうためです。

防除の方法

レモンの開花期は1ヶ月以上と他のかんきつに比べたら続く傾向にあります。防除適期はほぼすべての開花が終わり落弁してしまつたところから1週間～10日の間、この時期にサンマイト水和剤の3,000倍、ハチハチフロアブルの2,000倍、アプロードエースフロアブルの2,000倍等を散布してください。散布時期を早めてかけ残し(散布時に未開

花の子房には薬剤がかからない)をつくるよりも、すべての果実表面に薬剤を付着させる方が効果的です。最近のダニ剤は付着した薬剤の上をダニが歩いただけで効果を発揮し、ダニが死ぬためです。

その他の作物

かんきつに被害を及ぼすのは落弁後の一時のことですが、その他の時期は下草などの新芽で吸汁しているようです。野菜などにも被害を及ぼし、新葉がなんとなく元気がない、段々縮れてきた等の時にはホコリダニやアザミウマの被害であることも少なくないようです。

果実の肥大する方向
果梗の付け根部分で、新しい組織が次々と形成され、果頂部方向へ押し出される

吸汁中のホコリダニ
果梗部付近の、分化して間もない若い組織を吸汁



図1 吸汁痕が同心円状に広がる理由